

自治体SDGs推進評価・調査検討会からの講評

提案者	講評
宮城県 大崎市	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画において、世界農業遺産を軸として、ブランド認証制度に至る取組は特徴的である。また、モデル事業における「ネイチャー・ポジティブ」も、単に言葉ではなく、学校教育や企業、関係人口と結びついてる点で実践的だと評価できる。 ・東北の穀倉地帯、まさに田園都市を目指す提案である。23%を占める農地におけるスマート農業の導入、農薬・化学肥料使用量の削減は良い提案で効果が見込まれる。ネイチャー・ポジティブを取っ掛かりとして、多様な価値の可視化を試みている点は興味深い。可視化を踏まえて、支えるアクターをどう巻き込むのか、どう養成するのかという観点も重要である。 ・ネイチャー・ポジティブのための生物多様性の可視化、アクション認証など具体的な事業の取組は着実に進めていくと思うが、その推進主体と、自治体、市民、消費者の連携のためのネットワークをモデル事業で構築されることを期待する。 ・市民や消費者が定量化されたデータを実感できる、農業の価値を可視化することと経済の価値、社会的価値等を重層的に共有できる場づくりを期待する。 ・ハイブリッド型ツーリズム、GIAHプラットフォームに期待する。 ・2030年のあるべき姿が抽象的で、やや一般的な目標になっている印象である。バイオマス、農業従事者等は丁寧に提示されているが、経済の取組を膨らますべきであると思料する。 ・「価値の可視化」について、価値の定め方が狭いと思料する。いぐねは良いものだ、のように価値観の決めつけの中にできている感じがするため、価値の多様化の視点を加えるとよいと思料する。「価値の可視化」の先に、「価値の実体

化」が必要である。もう少し積極的に、価値の活用や創造といった観点に着目する必要がある。

- ・自律的好循環について、金融機関や地域企業の巻き込みについて検討する必要があると史料する。
- ・計画推進に当たっては具体的な市民の巻き込み方法を検討する必要があると史料する。
- ・スマート農業、スマート林業の推進に際しては、持続性を見据えながら、投資対効果を踏まえて検討を進めて行く必要があると史料する。

自治体SDGs推進評価・調査検討会からの講評

提案者	講評
<p>千葉県 松戸市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世代（Z世代）と地域（常盤平団地）を絞り込み、課題や目標を明確にしたモデル事業は評価できる。また、特にパートナーシップがしっかりしており、実現可能性が特に高いと期待できる。「自分ごと」化をキーワードとしている点も良く評価できる。 ・プラットフォームの中でのビジネスコンテストやインターンなどの取組は興味深い。 ・産学官民連携窓口、SDGsプラットフォーム、登録認証制度でプラットフォーム参画を促し、カーボンニュートラルにつながる循環型社会の実現のアクションプランを具体化することを期待する。Z世代に高齢化と国際化が特徴的な常盤平の課題解決に自分事として取り組むための仕掛けとしての橋渡し機能、例えばミライラボ、についての検討と説明を期待する。 ・団地モデル事業は実現可能性が高い。地域産業資産を踏まえてコンテンツ産業を誘致しており、共働きしやすい街、企業理解の促進を目指す経済面の提案は興味深い。健康都市、男女共同等の社会面でも良い提案である。 ・環境面がごみ減量とグリーンインフラ保全とやや弱いため、更なる検討が望まれる。 ・まつどSDGsプロジェクトは団地をターゲットにしており、自治会とプラットフォームの意見が対立しないかどうか、注意しながら進める必要があると思料する。 ・どのような地域課題がどのように解決されるのかの説明があると意義が明確になると思料する。

自治体SDGs推進評価・調査検討会からの講評

提案者	講評
東京都 足立区	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsは地球にとっての持続可能性、人類にとっての持続可能性の2つがあり、貧困をターゲットにしている提案は今までになく、貧困問題に真正面から取り組み、その解消をSDGsによる希望作りに設定している点は秀逸である。地域を限定した統合的取組における「未来会議」や「SDGsラボ」の仕組みや形成の実践プロセスにも期待する。波及効果もあり、実現することを期待する。 ・足立区の貧困、犯罪の町のイメージを払拭し、若い世代が希望を持てる都市への転換についての提案であり、進学率UP、子供の居場所、防犯カメラ見守IoT活用での犯罪予防、創業支援での経済力UPと若者雇用支援は評価できる。 ・環境面での提案が弱いため、具体的な検討が望まれる。 ・貧困の連鎖を解消する取組として、アヤセ未来会議が経済活性化につながるメカニズムとして商業施設の立地誘導と住民によるマルシェの具体的な方策、財源についての検討を期待する。 ・意識の高いと思われる住民層へのSDGsの認知、自分事として行動意欲を高める活動と自分事化を未来会議が中心となって地域の活動帯の連携を誘導して進めることを期待する。企業の巻き込みについて可能性の高い地域であり、積極的に活用いただくことを期待する。 ・モデル事業対象地域における先進的な取組の効果を区域全体に広げていけるよう工夫がなされることを期待する。 ・「貧困問題の解消」に焦点を当てた取組として本事業の成果が挙げられることを期待する。 ・高齢者や一人親などの貧困層の雇用を作り出すことが重要であり、KPIを定めて3年間でどのように進めていくのかをしっかりと明確にする必要があると思料する。 ・認定企業制度については、幅広い視野で考える必要があると思料する。

- ・ 商業活性化が貧困対策にどのようなつながるのかを具体的に検討されることが望まれる。

自治体SDGs推進評価・調査検討会からの講評

提案者	講評
新潟県 新潟市	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の概念を広げながら、それに特化する取組であり、今後他地域へ広がるモデルとなりうるものであると思料する。農業に関わる事業でありながら、モデル事業を学習に絞り込んだ点が評価できる。 ・地域特徴、地域資源をよく把握し農業を中心に据え、三側面の好循環を提案した、非常に良い計画であり評価できる。 ・食と農のサプライチェーンの再構築という野心的なプロジェクトであり、民間を巻き込みつつ、具体例からどのようにトランジションをメインストリーム化するのかという戦略が重要である。SDGs未来都市の大きな目標の一つに地域経済の活性化があるので、食と農と繋げることで枠組みを広げて可能性を持たせることを期待する。 ・教育まで一体化して推進していくことは期待でき、農業県である新潟で本取組に力をいれることは意義がある。 ・バーチャルの空間を作って販売とブランディングをしていくというのは新しい挑戦であり、期待する。バーチャルが新たな触媒となって、今までの古い産業の形を変えることを期待している。また、農産物を売るだけではなく、観光という視点や、バーチャル空間を作るというそのものの起業の拡大にもつながりそうであると感じる。食べること及び学ぶこととの連携も検討いただければ、より取組が広がると思料する。 ・実効性も高く成果を期待するが、新規農業者へのデータシェアリングなど、SDGs視点での循環の構築を期待する。 ・アグリスタディプログラム、農業DX、バーチャルマーケット等魅力的な事業が提案されているが、具体的な分野連携の活動の広がり、農業経済の社会、環境への展開についての説明を期待する。

- ・消費者、食品加工事業者、飲食事業者、販売事業者と連携するDXプラットフォームが構築されるのかどうか検討することを期待する。
- ・教育について、新潟には農業大学校もあると認識しているので、高校までだけではなく大学校も枠組みに入れることを検討することが望まれる。
- ・バーチャル都市は論理的に考えれば消費者とつながろうとしているものと考えられるが、小売り業者と卸業者を入れる必要があると思料する。
- ・令和版アグリスタディプログラムは、素晴らしい取り組みであるが、コンテンツの充実とその更新が持続的な取り組みとして重要であり、記載されているように、市内で取り組む食と農に関わる様々な取り組みを組み込む事を推進していく必要があると思料する。
- ・学習対象者に関しても、社会人含めた多様な方々を対象とするべく検討する必要があると思料する。

自治体SDGs推進評価・調査検討会からの講評

提案者	講評
<p>岐阜県 恵那市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル事業における統合的取組が意識的に仕組まれており、SDGsに対する理解度が高く、事業も堅実で評価できる。フードチェーンを中心にした、コンパクトな提案で完成度が高く評価できる。 ・事業者登録制度で、金融機関からの融資実施や地域農産品の域内消費、レシピ開発での健康寿命延伸、恵那電力での地域電力事業提案について、実効性が高く、効果が見込まれる。 ・統合的取組について金融機関がストレートに出ている、地域経済の活性化が意識されている点が評価できる。しかし、取組が恵那市の中で閉じていて需要が拡大しないと感じられるため、如何に広く波及させるかという広域の視点を加えればより発展できると考える。域外につないでいくためにも地域商社の役割が重要である。 ・働く、食べる、暮らすをつなぐ、地場産品の活用取組、食の情報発信についてはしっかりと検討されており、具体的な事業の創出、企業連携の構築、市民活動の巻き込みについての更なる検討を期待する。交流人口との連携、フードチェーンにかかわる広域連携など重層的な連携を想定することも期待する。SDGsモデル事業としては、具体的な事業につながる道筋は検討いただいていると思うが、文化的な豊かさや、健康につながることを測定する顕彰する仕組みや、波及の仕組みのエビデンス化を期待する。 ・「ふうど認証」をどのように実行していくのかという点では課題があるが、構想としては完成していると思料する。 ・統合的取組について、ポスターやシールレベルでは持続性がないと思料する為、ポイント制のような地域循環経済との組み合わせは良いと考える。ただ、広域展開では使えないというジレンマがあるため工夫が必要である。 ・恵那市の農業・食品の優勢を活かした提案であるがSDGs的に進めるには、オーガニックや有機食品といった食自体の

安全性から、安全基準を満たした工場、正当な働き方といった出口までの流れにおける、すべてにおいて認証が必要であると考えます。オーガニックや有機食品の認証について、認証を受ける費用が高いため、農家の認証取得が進んでいないという課題があります。農家の理解も深めながら、取組を進めることを期待します。

自治体SDGs推進評価・調査検討会からの講評

提案者	講評
<p>大阪府 阪南市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的なステークホルダーと連携してカーボンニュートラルの取組が動き始めていて、地に足がついた計画で興味深い。カーボンニュートラルに関する2つの事業は特徴的であると同時に実現可能性が高く、期待できる。 ・ 全体計画と比較して、モデル事業の提案は特徴的であると同時に実現可能性が高く、評価できる。 ・ 経済・社会・環境のそれぞれの取組の連携相手が明確に名前まで載っていて、市長のリーダーシップが発揮される取組であると期待している。お茶は世界共通言語になると思うため、お茶を中心として世界にアピールすることを期待する。 ・ オンライン申請500件でのDX化、ワークステーション整備で子育て世代の仕事支援を行い、モデル事業として、COベンefit創出協議会を土台に三側面の好循環を目指す提案であり、継続し続ければ大きな成果を生むと思料する。組織体制とリーダーシップに期待する。 ・ フードチェーンの中にブルーカーボン、グリーンカーボンを位置付けて展開することや、ブルーカーボンとグリーンカーボンをきっかけ・核にして、様々な分野でベネfitを開拓することで、世界への阪南に繋がることを期待する。 ・ ベッドタウンからホームタウンへ向けて、グリーンカーボンやブルーカーボンの社会実証をカーボンニュートラル阪南のショーケースとすること、食品メーカー、食品ブランド、流通チェーンとの連携による市民の巻き込みを期待する。

自治体SDGs推進評価・調査検討会からの講評

提案者	講評
和歌山県 田辺市	<ul style="list-style-type: none">・ 1000年守り続けてきた霊場と参詣道：通称熊野古道の仕組みこそがSDGsであると捉えたことは素晴らしいと思料する。今後1000年守り続けられる仕組みの構築が重要である。・ 今回の提案は、観光経済・人材育成コミュニティ再生、森林の保護管理を一体的とするものであり、効果が高く評価できる。・ 森林環境教育プログラム、ローカルイノベーターネットワーク事業によるCSVを広げる取組で外局的に取り組まれている。たなべ未来創造塾を運営する組織的な基盤が持続的であることを期待する。また、交流人口、関係人口を地域活力につなげることの実績を期待する。未来創造塾、関係人口塾から40-50人のビジネスにつながっていることは、ぜひともモデル事業として発展することを期待する。・ 関係人口を含めた各種の人材育成をモデル事業として取り組み、SDGs実現の基軸とする発想は重要である。

自治体SDGs推進評価・調査検討会からの講評

提案者	講評
鳥取県	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少を優位性に変えようとする積極的な提案である。キーワードは分散化、創業、DX、スマート化、カーボンニュートラルで、これを経済・社会・環境分野に横断的に実装させる方針である。耕地面積の拡大など、実効性が高く、モデル事業の実現可能性があり評価できる。県内自治体と連携して人材育成を進めることを期待する。 ・統合的取組から三側面に向けて、橋渡し人材として飛び出していくのはユニークで興味深い。一方で、想定されているステップ3までの人材育成は静的であり、現場で橋渡し人材として活躍するにはより動的な人材育成が必要であると思料する。 ・人材育成は重要であり、マッチングとして何と何をつないでどのようなものを創っているのか、具体例の積み重ねを期待する。 ・経済・社会・環境のそれぞれの分野の人材育成とマッチングに取り組むのは、広域自治体の県らしい取組と言える。ただし、もう少し人材イメージの具体化が必要であると思料する。 ・産官との連携やマッチングについては、県内や企業にこだわらず、オールジャパンの広い視点で連携されることが望まれる。 ・人材育成、企業認証制度支援などの人材育成プラットフォームと具体的な地域電力、MaaSなどの事業とどのように連携するのか、それ以外に具体的な地域ビジネスの萌芽はどのようなものがあるのか説明が望まれる。

自治体SDGs推進評価・調査検討会からの講評

提案者	講評
<p>熊本県 八代市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル事業として、食を中心としたビジネス創出、環境保全、地域社会の再生の発想は魅力的である、具体的な事業提案となっており、マッチング制度にも実現性があり評価できる。 ・「食」を通じた各種取組の推進により経済・社会・環境の三側面とそれらの相互作用に統合的に貢献する事業の枠組みとして評価できる。 ・フードマッチング事業、独自のSDGs宣言事業などは特徴的である。食品活用のデジタルマッチングには流通事業者、消費者含むプロダクトチェーンでの情報共有まで視野に入れることを期待する。 ・食の加工、流通、有効利用を一体化して振興することは評価できるが、販売先の明確化を期待する。プロダクトアウト的ではあるが、交流の場を設ければ活路が開けると思料する。また、モデル事業とその統合的取組の関係を更に整理することが望まれる。 ・多様なマッチングの相乗効果を持たせるための仕組み、戦略において更なる検討が望まれる。 ・SDGsの社会面におけるフレームワークの観点から、運転手の買い物だけでなく、高齢者の健康増進等を目的として盛り込むことも検討することが望まれる。 ・ビジネスマッチングは良いアイデアであるが、マッチングのハードルは高いので、枠組みはしっかり考える必要がある。バイオパワー等の連携も検討が望まれる。 ・子ども食堂で一番困っているのは運ぶ人がいないという点なので、連携できれば良いと感じる。郵便局等との連携も検討が望まれる。

自治体SDGs推進評価・調査検討会からの講評

提案者	講評
<p>熊本県 上天草市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・海を中心とした三側面の好循環構築への提案であり、1次産業の振興と雇用の場作りや人材育成、船員となるための支援制度を拡充し、地元での雇用確保を目指す計画であり評価できる。海上太陽光発電にも挑戦し、地域資源分析から具体的な事業提案となっており、達成が期待できる。空間的に隔離された離島の連携によって、新しい社会がどのように作られるのか期待する。 ・DXによる人手不足解消、温室効果ガス削減の具体的なプラットフォームとの関わりを計画することを期待する。ブルーカーボンのオフセットがもたらす経済価値を、持続的にする仕組みを期待する。湯島の地域エネルギー会社については、あえて島での自律的なエネルギーシステムを実現することを期待する。 ・統合的取組において、4つの島にそれぞれテーマを決めて、アクセントを付ける取組は興味深い。また、その取組に対して「上天草SDGs推進パートナー」が対応する構想も現実的である。ただし、グローバルベンチャー・ラボに負荷がかかることが予想されるため、運用体制については更なる検討が望まれる。 ・グローバルベンチャーラボの事業は、藻場のモニタリングとカーボンオフセット事業に加えて、どのようなものが具体化、DXによる水産業の活性化について具体的な自治中心組織とその官民連携の姿の説明を期待する。 ・経営については経験も問われるため、プロジェクトマネージャーのような人材が必要であると思料する。 ・島ごとに特色ある取り組みを進めるということよりも、むしろ連携してそれらが相乗効果をもたらすという工夫を前面に出せるように工夫が必要と思料する。